

誰でも、いつでも乗れる水間鉄道が実現！

NPO法人自立生活センター・あすとる
足立 誠

2018年4月23日から、水間鉄道の車掌室に携帯スロープが常積され、車いす、シニアカー、ベビーカー等ユーザーが待たされることなく、いつでも乗車できるようになりました。今回はその経過報告を書きたいと思います。

【状況と課題】

水間鉄道は全10駅ありますが、有人駅である貝塚駅と水間観音駅以外は終日無人駅（一部時間帯例外あり）となっています。それまでは有人駅にある携帯スロープを車両に積み込むために電話での事前連絡が必要で、無人駅から乗る場合には20～30分待たされることを余儀なくされていました。

- ① 一部の乗客だけが事前連絡を要し、電車を利用する度に20～30分待たされることは障害者権利条約にある「他の者との平等」に反している。
- ② 事前連絡をしても予定の時間に間に合わず乗れなかったり、複数の車いす利用者の方が連続して別々の電車に乗った場合、携帯スロープは駅に1枚しかないため後に乗車した方はスロープを利用できない。
- ③ 無人駅には構内に待合スペースがなく、酷暑・極寒の時期は長時間電車を待つことが難しい障害状況の方もいる。



水間鉄道は2両編成ワンマン運行。車両の連結扉が広く、車いすで自由に移動できる。

【改善策とその後の対応】

そこで、水間鉄道を日常的に利用する仲間とともに改善を訴え続け、上記3つの課題について駅員や本社の方と話し合いをしました。その際、改善の参考にさせて頂いたのは京都にある京福電鉄（通称：嵐電）の対応でした。京福電鉄では観光地が近い駅も多く、様々な方が乗車されるため、車掌室に携帯スロープを常積しています。実際に現地に行って乗車体験し、いつからそのような対応になったのかを取材した資料を踏まえながら、話し合いを進めました。

本社の方からは、前向きに対応改善に向けて準備を進めていること、運行する各車両に1枚ずつ携帯スロープを常備できるよう準備したいと考えていることを報告頂きました。また新しく導入する2枚の携帯スロープはどのようなものがユーザーにとって良いのか、率直な意見交換の機会と、新スロープの試験導入時の乗降テストの機会にも立ち会わせて頂きました。



「『みんなで』乗って守ろう、5.5キロ」は、水間鉄道のキャッチフレーズ？ですが、当たり前前に電車を利用できる『みんな』の中にやっと私たちも入ることができました。

ただバリアの改善を図るのではなく、その過程に実際にスロープを利用するユーザーとの対話があり、一緒に改善案を考えてもらえたことに、とても感謝しています。

さあ、もっともっと水間鉄道に乗るぞー！